

令和4年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 令和4年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)実施校は、全日制課程のべ33校48科、定時制課程1校1科。特色選抜(スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む)実施校は、全日制課程のべ18校18科であった。
- 推薦選抜、特色選抜合わせて6,202人(スポーツ・文化芸術推薦選抜155人を含む)が出願し、3,145人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.06倍であった。また、出願変更率は6.3%であった。

<推薦選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】> ※()は前年度であり、以下同様。

- 1 出願状況
 - 募集枠 2,193人
 - 出願者数 2,301人 出願倍率:1.05倍(1.08倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 2,300人
 - 入学許可予定者数 1,985人 合格率:86.3%(86.0%)

<特色選抜【スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む】>

- 1 出願状況
 - 募集枠 1,160人
 - 出願者数 3,901人 出願倍率:3.36倍(3.43倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 3,886人
 - 入学許可予定者数 1,160人 合格率:29.9%(29.2%)

<スポーツ・文化芸術推薦選抜【推薦選抜・特色選抜の内数】>

- 1 出願状況
 - 募集枠 178人
 - 出願者数 155人 出願倍率:0.87倍(0.83倍)
- 2 受検状況および入学許可予定者
 - 受検者数 155人
 - 入学許可予定者数 135人 合格率:87.1%(91.7%)

<一般選抜・学力検査>

- 1 出願状況
 - 出願者数 7,056人(6,771人)
 - 確定出願者数 7,010人(6,731人)
 - 確定出願倍率 全日制1.09倍(1.10倍)、定時制0.53倍(0.47倍)
全・定合わせて1.07倍(1.07倍)
- 2 出願変更状況
 - 出願変更者数 444人 このうち46人は出願辞退者
 - 出願変更率 6.3%(6.1%)
 - (1)学科別出願変更率では音楽学科が20.0%と最も高かった。(前年度は工業学科の9.2%)
 - (2)学校出願を除く普通科の出願変更者数は240人で、出願変更率は6.0%(6.1%)
- 3 受検状況
 - 受検者数 6,994人 受検倍率 1.06倍(1.07倍)
 - 全日制6,854人 1.09倍(1.10倍) 定時制140人 0.52倍(0.47倍)
- 4 入学許可予定者
 - (1)学力検査による入学許可予定者数 6,117人 合格率87.5%(87.3%)
 - (2)入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および小学科 26校30学科(23校31科)

<二次選抜>

- 1 二次選抜募集の学校・学科および募集定員
全日制21校24科340人、定時制5校6学科135人。全・定合わせて26校30学科475人
- 2 出願状況 出願者数 99人 出願倍率 0.21倍(0.25倍)
- 3 受検状況 受検者数 97人 受検倍率 0.20倍(0.24倍)
- 4 入学許可予定者 入学許可予定者数 94人 合格率 96.9%(87.9%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

- 1 入学許可予定者総数 9,356人
- 2 実入学者数 9,354人
- 3 定員充足率 96.2%(96.5%)

令和4年度
滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ
(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

令和4年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	・・・ 1
	（1）推薦選抜、特色選抜の結果	・・・ 1
	（2）スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果	・・・ 2
	（3）一般選抜の結果	・・・ 2
	（4）入学者選抜の結果	・・・ 3
2	学科別の受験者数、入学許可予定者数等について	・・・ 4
3	一般選抜における出願変更者数について	・・・ 5
4	一般選抜における面接・作文・実技検査について	・・・ 5
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	・・・ 6
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	・・・ 7
2	配点等	・・・ 7
3	検査成績	・・・ 7
4	その他	・・・ 7
	【各教科の分析】	
	国 語	・・・ 8
	数 学	・・・ 10
	社 会	・・・ 12
	理 科	・・・ 14
	英 語	・・・ 16

I 全日時の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について ※中高一貫教育に係る人数は除く

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校（普通科15、専門学科11、総合学科7 のべ33校）、定時制課程の1校（普通科1）であった。特色選抜実施校は、15校（普通科14、専門学科4 のべ18校）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月8日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中96校（昨年度106校中99校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は22校（昨年度13校）であった。全日制の出願者数は、普通科で790人（昨年度826人）、農業学科で203人（昨年度195人）、工業学科で333人（昨年度325人）、商業学科で325人（昨年度294人）、家庭学科で87人（昨年度90人）、体育学科で50人（昨年度41人）、美術学科で60人（昨年度44人）、総合学科で438人（昨年度462人）であった。定時制は普通科の15人（昨年度8人）となった。この結果、出願者数合計は、2,301人（昨年度2,285人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.02倍（昨年度1.15倍）、専門学科で1.16倍（昨年度1.10倍）、総合学科では0.90倍（昨年度0.94倍）、定時制の普通科は1.25倍（昨年度0.67倍）となり、実施学科全体では1.05倍（昨年度1.08倍）であった。この結果、1,985人が入学許可予定者となり、合格率は86.3%（昨年度86.0%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・義務教育学校・中等教育学校106校中101校（昨年度106校中101校）、県外の中学校は11校（昨年度12校）であった。出願者数は、普通科で3,767人（昨年度3,684人）、理数学科で85人（昨年度91人）、音楽学科で23人（昨年度27人）、文理探究学科で26人（昨年度30人）であった。この結果、出願者数合計は3,901人（昨年度3,832人）となり、出願倍率は、普通科では3.49倍（昨年度3.55倍）、専門学科では1.68倍（昨年度1.85倍）となり、実施学科全体では3.36倍（昨年度3.43倍）であった。この結果、1,160人が入学許可予定者となり、合格率は29.9%（昨年度29.2%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,145人が入学許可予定者となり、合格率は50.8%（昨年度50.5%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者数 B	受検者数 B'	出願倍率 B/A'	入学許可 予定者数 C	合格率 C/B' (%)	
			割合(%)	人数A'						
推薦選抜	普通科	2,640	20~30	776	790	789	1.02	722	91.5	
	普通科(定)	40	30	12	15	15	1.25	12	80.0	
	専門学科	農業	400	50	200	203	203	1.02	181	89.2
		工業	720	50	360	333	333	0.93	315	94.6
		商業	520	50	260	325	325	1.25	254	78.2
		家庭	80	40	32	87	87	2.72	32	36.8
		体育	40	85	34	50	50	1.47	34	68.0
		美術	40	75	30	60	60	2.00	30	50.0
		小計	1,800		916	1,058	1,058	1.16	846	80.0
	総合学科	1,240	30~40※	489	438	438	0.90	405	92.5	
合計	5,720		2,193	2,301	2,300	1.05	1,985	86.3		
特色選抜	普通科	3,600	30	1,080	3,767	3,752	3.49	1,080	28.8	
	専門学科	理数	80	50	40	85	85	2.13	40	47.1
		音楽	40	50	20	23	23	1.15	20	87.0
		文理	40	50	20	26	26	1.30	20	76.9
		小計	160		80	134	134	1.68	80	59.7
合計	3,760		1,160	3,901	3,886	3.36	1,160	29.9		
総合計	9,480		3,353	6,202	6,186	1.85	3,145	50.8		

※信楽高等学校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜の追検査受検者を含む。

(2) スポーツ・文化芸術推薦選抜の結果

スポーツ・文化芸術推薦選抜を実施した県立高等学校は、全日制課程の19校（普通科11、専門学科6、総合学科3のべ20校）であった。このうち、推薦選抜実施校は16校（普通科7、専門学科6、総合学科3）、特色選抜実施校は、全日制課程の4校（普通科4）であった。

受検者数155人に対して、入学許可予定者数は135人となり、受検者数に対する合格率は、87.1%（昨年度91.7%）となった。

(3) 一般選抜の結果

一般選抜は、学力検査定員6,576人に対し、確定出願者数は7,010人であり、確定出願倍率は1.07倍であった。また、受検者数は6,994人であり、受検倍率は1.06倍であった。この結果、6,117人が入学許可予定者となり、合格率は87.5%であった。

二次選抜は、二次選抜定員475人に対し、受検者数は97人であった。この結果、94人が入学許可予定者となり、合格率は96.9%であった。（表2参照）

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目	年度	令和4年度	令和3年度
	学力検査	学力検査定員 A	6,576
出願者数		7,056	6,771
確定出願者数 (倍率)		7,010 (1.07)	6,731 (1.07)
受検者数 B (倍率)		6,994 (1.06)	6,713 (1.07)
不合格者数 B-C		877	852
入学許可予定者数 C		6,117	5,861
合格率 C/B (%)		87.5	87.3
二次選抜	二次選抜定員	475	416
	出願者数	99	102
	受検者数 D (倍率)	97 (0.20)	99 (0.24)
	不合格者数 D-E	3	12
	入学許可予定者数 E	94	87
	合格率 E/D (%)	96.9	87.9
入学許可予定者数合計 C+E		6,211	5,948

※上記には、学力検査の追検査受検者を含む。

(4) 入学者選抜の結果

県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は9,356人であった。全日制では募集定員9,440人に対して入学許可予定者数9,205人、定時制は募集定員280人に対して入学許可予定者数151人となった。

入学許可予定者数の内訳は、推薦選抜1,985人、特色選抜1,160人、スポーツ・文化芸術推薦選抜135人、一般選抜6,117人で、二次選抜94人であった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は9,354人で、募集定員の96.2%（昨年度96.5%）となった。（表3参照）

表3 入学許可予定者数等

項目	年度	令和4年度			令和3年度
		全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数				13,976	13,435
募集定員 A		9,440	280	9,720	9,360
推薦選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,973	12	1,985	1,850
特色選抜入学許可予定者数（スポ文を含む）		1,160	-	1,160	1,102
スポーツ・文化芸術推薦選抜入学許可予定者数		135	-	135	132
一般選抜入学許可予定者数		5,984	133	6,117	5,861
二次選抜入学許可予定者数		88	6	94	87
総計	入学許可予定者総数	9,205	151	9,356	9,032
	実入学者数 B			9,354	9,029
	定員充足率 B/A(%)			96.2	96.5

※県内中学校卒業予定者数は、令和4年3月中学校、義務教育学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、商業学科、音楽学科、総合学科の5学科（昨年度5学科）であった。（表4および別表参照）

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等（スポーツ・文化芸術推薦選抜を含む）

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	文理	総合	
募集定員 A		9,720	6,400	400	800	520	80	80	40	40	40	40	1,280	
推薦選抜	募集枠（人数）	2,193	788	200	360	260	32	-	34	-	30	-	489	
	受検者数 B	2,300	804	203	333	325	87	-	50	-	60	-	438	
	入学許可予定者数 C	1,985	734	181	315	254	32	-	34	-	30	-	405	
	合格率 C/B(%)	86.3	91.3	89.2	94.6	78.2	36.8	-	68.0	-	50.0	-	92.5	
特色選抜	募集枠（人数）	1,160	1,080	-	-	-	-	40	-	20	-	20	-	
	受検者数 D	3,886	3,752	-	-	-	-	85	-	23	-	26	-	
	入学許可予定者数 E	1,160	1,080	-	-	-	-	40	-	20	-	20	-	
	合格率 E/D(%)	29.9	28.8	-	-	-	-	47.1	-	87.0	-	76.9	-	
一般選抜	学力検査	学力検査定員	6,576	4,586	220	485	266	48	40	6	20	10	20	875
		確定出願者数	7,010	*4,038	240	409	276	65	**	**	4	**	**	816
		受検者数 F	6,994	*4,027	240	409	276	65	**	**	4	**	**	812
		入学許可予定者数 G	6,117	4,325	219	403	261	49	40	6	4	10	20	780
		合格率 G/F(%)	87.5	***	91.3	98.5	94.6	75.4	***	***	100	***	***	96.1
	二次選抜	二次選抜定員	475	266	2	86	5	-	-	-	16	-	-	100
		出願者数	99	75	0	16	1	-	-	-	0	-	-	7
		受検者数 H	97	73	-	16	1	-	-	-	-	-	-	7
		入学許可予定者数 I	94	70	-	16	1	-	-	-	-	-	-	7
		合格率 I/H(%)	96.9	95.9	-	100	100	-	-	-	-	-	-	100
総計	入学許可予定者数	9,356	6,209	400	734	516	81	80	40	24	40	40	1,192	
	実入学者数 J	9,354	6,209	400	733	516	81	80	40	24	40	40	1,191	
	過不足 J-A	-366	-191	0	-67	-4	1	0	0	-16	0	0	-89	
	定員充足率(%)	96.2	97.0	100	91.6	99.2	101	100	100	60.0	100	100	93.0	
前年度定員充足率(%)		96.5	97.8	95.8	87.1	99.8	100	100	100	67.5	100	100	95.1	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

※上記には、推薦選抜、スポーツ・文化芸術推薦選抜、学力検査それぞれの追検査受検者を含む。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術	普通	文理探究
一般選抜	学力検査	学力検査定員	364	40	224	6	115	10	128	20
		確定出願者数	536		365		120		141	
		受検者数	535		365		120		141	
		入学許可予定者数	359	40	224	6	106	10	121	20

3 一般選抜における出願変更者数について

出願者数7,056人に対し、出願変更者数は444人（昨年度413人）で、出願変更率は6.3%（昨年度6.1%）となり、確定出願者数は7,010人であった。

各学科別の出願変更率は、音楽学科の20.0%が最も高く（昨年度の最高は美術学科の10.6%）、次に、農業学科の14.0%であった。（表5参照）

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願者数 A	出願変更者数 B	出願 変更率 B/A(%)	確定 出願者数 C	出願 変更者数	出願 変更率 (%)
学科	* 普通	3,755	4,019	240	6.0	4,038	237	6.1
	農業	220	258	36	14.0	240	18	8.4
	工業	485	405	24	5.9	409	34	9.2
	商業	266	271	16	5.9	276	8	3.6
	家庭	48	67	5	7.5	65	6	7.6
	音楽	20	5	1	20.0	4	0	0
	総合	875	819	37	4.5	816	35	4.5
学校 出願	普通・理数	404	546	27	4.9	536	37	6.1
	普通・体育	230	398	45	11.3	365	23	6.9
	普通・美術	125	125	9	7.2	120	11	10.6
	普通・文理	148	143	4	2.8	141	4	2.7
	合計	6,576	7,056	444	6.3	7,010	413	6.1

* 普通科は学校出願を除く

4 一般選抜における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は、全日制の課程では八日市南高等学校、愛知高等学校の2校4科、定時制の課程では、大津清陵高等学校（夜間）の1校1科であった。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校（音楽科）、草津東高等学校（体育科）、栗東高等学校（美術科）の3校3科であった。

なお、作文の実施校はなかった。

II 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し9人（昨年度17人）が入学許可予定者となり、0.23倍（昨年度0.43倍）の倍率となった。二次選抜では、2人（昨年度1人）が入学許可予定者となり、合計11人（昨年度18人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ、一次選抜では150人の出願者（昨年度127人）に対して、150人（昨年度127人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、35人（昨年度19人）が入学許可予定者となり、合計185人（昨年度146人）が入学許可予定者となった。

（表6参照）

表6 募集定員，出願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A(%)		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
令和4年度	単位制 転編入	40	9	9	0.23	0	2	2	11	-29
	通信制	320	150	150	0.47	0	35	35	185	-135

令和3年度	単位制 転編入	40	18	17	0.43	0	1	1	18	-22
	通信制	320	127	127	0.40	0	19	19	146	-174

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量のみみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、基礎的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正しく理解する力、自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

検査教科ごとの受検者の平均点は、国語47.1点、数学42.3点、社会56.8点、理科48.8点、英語47.0点であった。

4 その他

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、新型コロナウイルス感染症にかかる令和4年度滋賀県立高等学校入学者選抜に関するガイドラインにおける受検可否の判断を見直すとともに、学力検査の追検査を実施し、受検機会を確保した。

令和4年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、言葉を正確に理解し適切に表現する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「全体的に文章量も記述量も多く、負担が大きい」という意見が多くみられた。一方、「素材文は非常に良いものであった」という意見も多数みられた。

各設問については、□は、「条件を満たすことに精一杯で、傍線部に対する答えになっていない答案が多かった」「条件2の必然性が感じられない」といった意見が多かった。△は、「自分で問いを立てて解答作成する良問である」「条件の設定が優れている」といった評価もある一方で、「情報量が多く注目すべきポイントを押さえるのが難しい」といった意見もあった。◇については、「適切な難易度であった」「古文の比重が軽く、易化している」といった意見がみられた。

3 解答の分析

全体を通して、漢字や語句の使い方に関する基礎的・基本的な知識を問う問題については、問題によるばらつきはあるものの、概ね正答率は高かった。また、複数資料を比較して正しい情報を選ぶ問題の正答率も高い。一方で、本文の論理の流れを押さえて記述する問題や、本文における主張や要旨に関わる内容について、複数の条件を踏まえて記述する問題の正答率は低かった。文章全体の構造を把握したうえで、複数の文章や資料を横断的に比較し、必要な情報を整理し取捨選択して分析する力や、求められている要素を的確にとらえて表現へと反映させる力を身に付けることが求められる。また、どのような語句や表現を用いればより適切な表現になるかを考え、吟味する力を伸ばすことが重要である。そのためにも、語感を磨き、語彙力を向上させるために言語活動に主体的に取り組むとともに、豊かな知識や多彩な体験に基づき、論理的思考力を向上させられるような学習活動の充実が求められる。

□は、箸や風呂敷のデザインの特徴について書かれた文章や関連する資料を素材として、文章全体と部分の関係に注意しながら、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ内容を把握する力、複数の資料を比較し適切な情報を得る力、文章の要旨を的確にとらえ適切にまとめる力を見る問題であった。

表現の抜き出しや、複数資料の比較を選択肢で問う問題については正解率が高かったが、文章全体と部分の関係に注意しながら文脈の中における語句の意味を的確にとらえ内容を把握する力や、適切にまとめる力を問う記述問題の正答率は低かった。文章構造を正確に把握し、全体と部分との関係について、必要に応じて適切にまとめる力を身に付けられるような学習活動が望まれる。

△は、短歌について説明された文章や資料を素材にして、文章中の語句の意味を理解したり文章や話の展開に即して内容をとらえたりする力、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て内容を解釈する力、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にしながら工夫して表現する力をみる問題であった。

文章や話の展開に即して内容を捉える問題や、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て内容を解釈する問題の正答率が低かった。文章全体の主旨を捉えた上で、状況に応じて必要な情報を整理して的確な表現ができるように、構成や展開、表現の仕方に留意しながら文章を読む活動に取り組みながら、語感や語彙力の向上と豊かな表現力を身に付けるような学習活動が求められる。

◇は、文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力、口語文法に関する知識、文語のきまりや古典の内容を適切にとらえる力をみる問題であった。

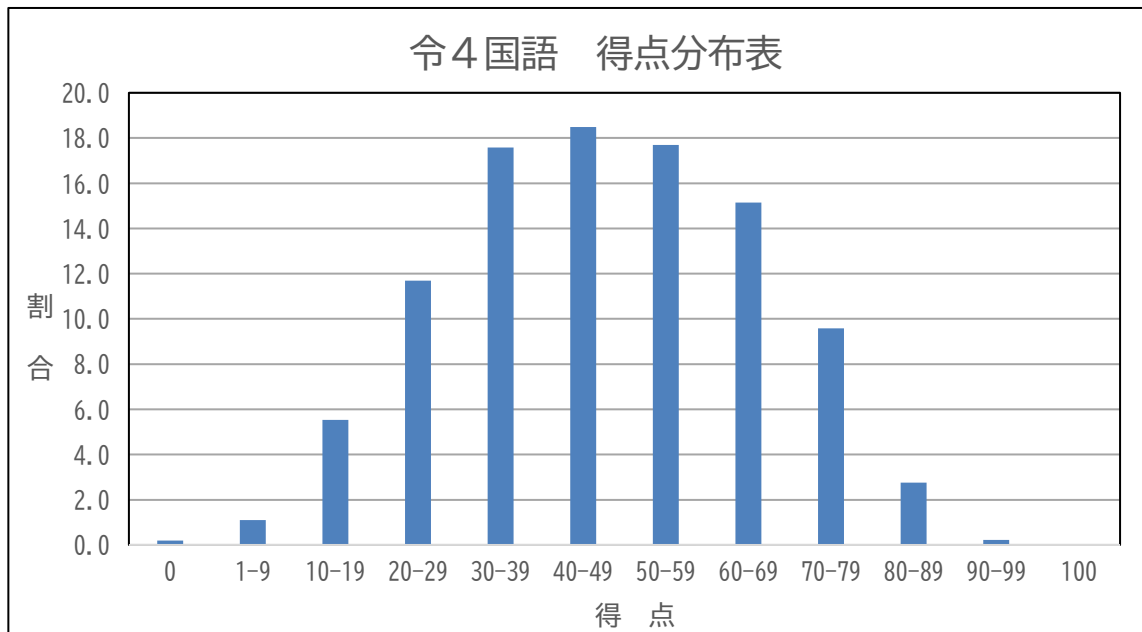
同音異字の書き取りや、口語文法に関する問題はやや正答率が低い。学習の基盤となる知識及び技能の充実を図るために、様々な種類の作品に触れることを通して言語文化に親しむ活動が望まれる。

国 語

問題区分		正答率
一	1	47.0
	2	11.3
	3	82.5
	4	36.1
	5	7.6
二	1	50.5
	2	8.4
	3	1.7
	4	26.6

問題区分		正答率	
三	1	①	66.8
		②	81.1
		③	67.7
		④	95.0
		⑤	41.0
	2	①	94.4
		②	70.1
		③	50.1
		④	69.6
		⑤	94.6
	3	①	93.3
		②	39.7
	4	①	80.2
		②	58.5

年度	平均点	標準偏差
令4(100点満点)	47.1	18.5



令和4年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般としては、「非常に良問だった。色々な高校の実態に沿った生徒の学力を測ることができた。」
「日常生活と数学の結びつきを意識させる良い問題であった。」などといった意見があった。

各設問については、「**①**は中学の数学の知識を測る適当な問題であった。」**②**は、関数のグラフと図形の性質を絡めた、良くできた問題であった。」**③**は、日常を題材に、(1)、(2)、(3)の難易度の変化がとても良かった。」**④**は、図形に関して、基本から応用までの内容を幅広く問う良問であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できている。一方で、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いておらず、四則演算を苦手とする生徒もみられた。まずは基本的な知識を習得し、正確に処理できる計算力を身に付けることが必要である。

また、題意を正確に読み取り、数学的に表現し処理する問題や自分の言葉で表現し説明する問題、空間認識に関する問題、解を求めるだけでなく解に至る過程を問う問題になると正答率が大幅に下がった。

基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるだけでなく、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や実験などにより、数や図形の性質を見だし、見いだした性質を発展させる活動を通して知識・技能を相互に関連付けて体系的に学ぶことにより、題意を正確に読み取り、数学的に表現する力、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

①では、中学校3年間で学ぶ基礎的、基本的な知識・技能を問う問題を幅広く出題した。

比較的に正答率が高く、基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できている。ただし、基礎的な内容を問う問題であっても、問題文や扱う数式が少し複雑になると正答率が下がる。日頃から粘り強く考察し、基礎的・基本的な知識を正確に活用し、処理する力の育成が望まれる。

②は、一次関数の式とグラフの相互関係や図形の性質について関数を用いて数学的に表現し処理する力を問う問題であった。解答に至るまでに複数の段階を経なければならない問題や自分の言葉で表現し説明する問題において正答率が低かった。基礎的・基本的な知識・技能を関連付けて身に付けること、図形の性質や計量を論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

③は、日常の生活を題材にし、与えられた情報や図形から数量関係を見だし、数学的に表現し処理する力を問う問題であった。問題の中の数量関係を文字を用いた式で表し、正確に処理する力や空間図形についての理解を深め、論理的に考察する力を養うことが望まれる。

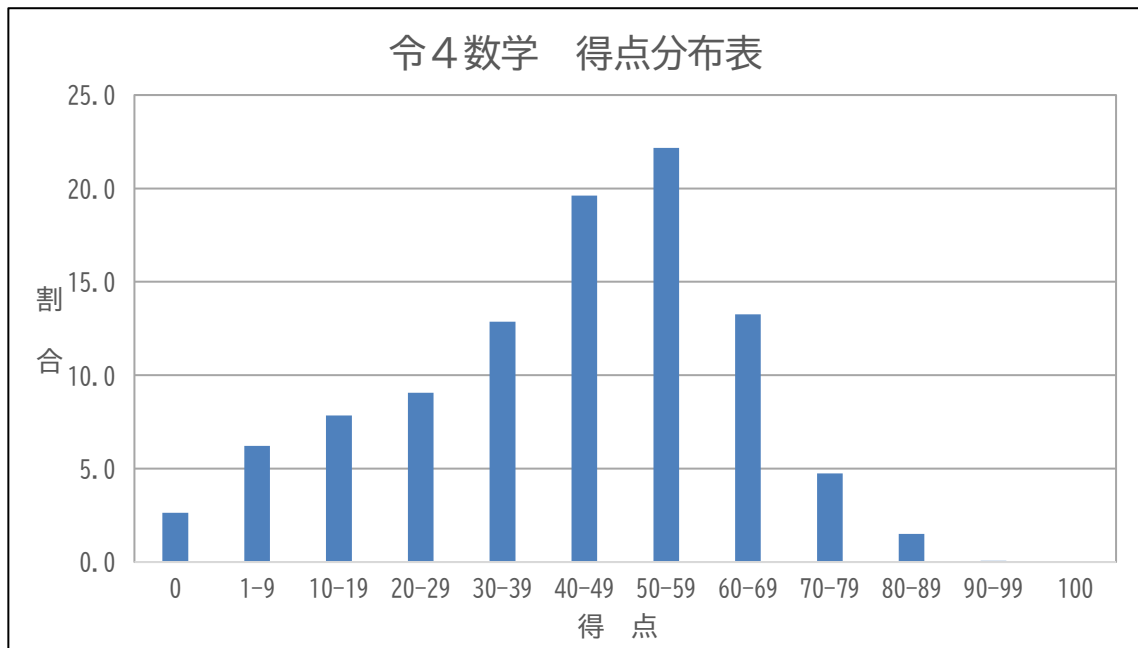
④は、解答にいたるまでに複数の段階を経なければならない問題、題意を正確に読み取り、与えられた複数の情報の中から必要な情報を読み取り表現する問題において正答率が低かった。習得した知識・技能をそのまま活用するだけでなく、題意を正確に読み取り、習得している知識・技能の中から、適切な知識を活用して粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

数 学

問題区分		正答率
1	(1)	83.9
	(2)	84.5
	(3)	66.0
	(4)	60.7
	(5)	54.7
	(6)	74.1
	(7)	52.1
	(8)	60.7
	(9)	65.6

問題区分		正答率	
2	(1) aの値	59.3	
	(1) 3a+bの値	37.6	
	(2)	27.7	
	(3)	8.4	
3	(4)	4.0	
	(1)	70.6	
	(2)	計算式	16.6
		解答	27.4
(3)	0.6		
4	(1)	44.9	
	(2)	3.3	
	(3)	8.8	
	(4)	0.9	

年度	平均点	標準偏差
令4(100点満点)	42.3	20.2



令和4年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に定められた内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「単なる事象の暗記ではなく、時代の大きな流れや正しい理解を問い、また、分野横断的なテーマを取り扱っている。」「地図・グラフ・写真など多様な資料を用い、複眼的な思考を求める、よく練られた問題が多かった。」などの意見があった。

設問については、「世界・日本地理のバランスのとれた良問であった。」「資料・史料のバランスがよく、思考力・判断力・表現力を問う問題が多い。」「滋賀県の持続可能な取組を経済や環境の側面から捉え、課題解決のために、若者が自らの生き方と重ねて考えることができるような良問であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得はおおむねできている。一方で、基礎的・基本的な知識、概念を組み合わせることで正答を導いたり、資料から適切な情報を取り出して、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみたりする問題で正答率が低い。何が問われているのかを正確に読み解き、図表やグラフから適切な情報を選択し、蓄積した知識から判断し、自らの言葉で表現したりする力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識や技能を正確に身に付けたうえで、各種の資料を主体的に活用したり、対話的に意見を交流したり、自分の言葉で論述したりして、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成することが望まれる。

①は、資源に関する、表や地図、写真などの資料をもとに、世界や日本の地域的特色についての理解をみるとともに、各地域の産業の特色や環境問題などを、さまざまな資料から多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。基本的な知識をみる問題や、資料から適切な情報を取り出して適切な形で表現する問題の正答率は高く、中学校での学習の成果がうかがえる。

②は、表や地図などの資料をもとに、古代から現代に至る各時代の人々と社会のかかわりについての理解をみるとともに、それぞれの時代において政治参加を図る人々の姿について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報と自分の持っている知識と組み合わせることで答える問題で正答率が低かった。考察力、表現力を総合的に育てていくことが望まれる。

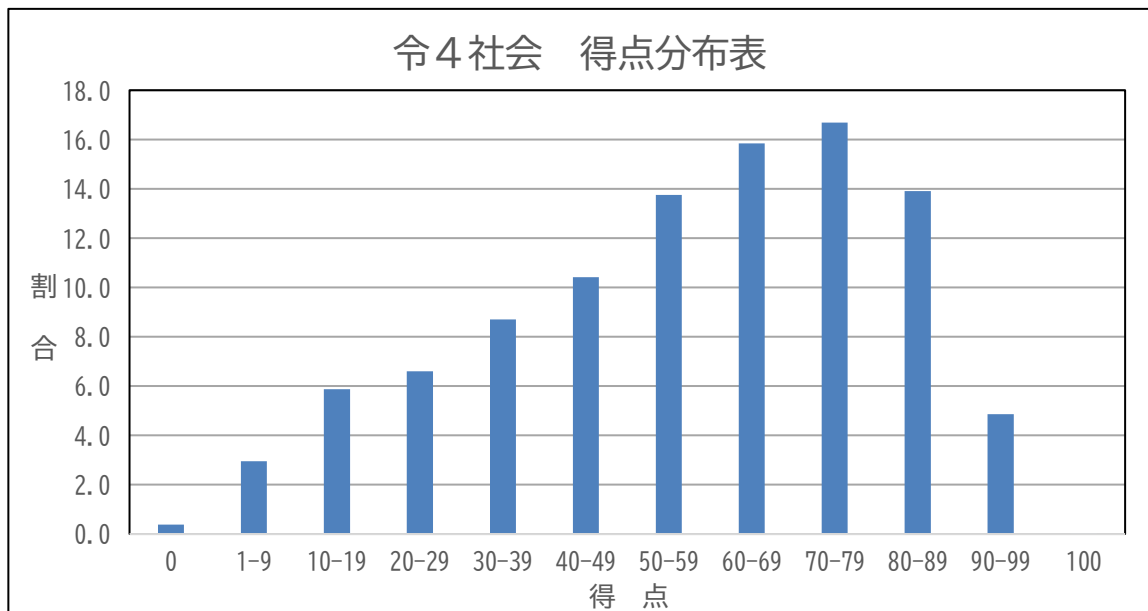
③は、表やグラフなどの資料をもとに、少子高齢化、消費者保護、市場経済についての理解をみるとともに、地球環境問題の課題や、過疎地域の課題について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。資料から得た情報を適切に文章にまとめる問題で正答率が低かった。今後も日ごろから身の回りの生活と社会との関わりに関心を持ち、多面的・多角的に考察し、表現する力を育てていくことが望まれる。

社 会

問題区分		正答率	
1	1	(1)	51.3
		(2)	70.4
		(3)	40.0
		(4)	47.7
	2	(1)	51.1
		(2)	56.9
	3		57.3
	4	①	53.2
		②	39.8

問題区分		正答率		
2	1		71.2	
	2	(1)	60.7	
		(2)	19.4	
	3	(1)	36.1	
		(2)	54.1	
		(3)	50.8	
	4	(1)	50.6	
		(2)	50.9	
	5	(1)	40.7	
		(2)	25.3	
	3	1		66.5
		2	(1)	68.9
			(2)	69.1
			(3)	84.1
3		(1)	56.5	
		(2)	37.7	
4		(1)	26.1	
		(2)	20.2	

年度	平均点	標準偏差
令4(100点満点)	56.8	23.7



令和4年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「実験や調べ学習をもとに考察させる過程を通し、基礎的な知識や思考力・判断力・表現力を問う問題であった。」「理科の見方・考え方ははたらかせて実験や調べ学習の結果から、読み解く力を発揮し、科学的に探究する力を見るように工夫された出題であった。」などの意見があった。

設問については、「植物の細胞の違いから、生物が成長するしくみを解釈する力が問われている。」「実験の結果をもとに問いを立て、新たな疑問を解決していく流れは思考力を養うことができる問題であった。」「データ処理やグラフの作成など、探究のプロセスを問う内容になっていた。」「熱分解を題材に、実験操作の意味や資料の読み取りなどを幅広く問う良問である。」などの意見があった。

3 解答の分析

物理、化学、生物、地学の各分野の基本的な知識や理解を問う問題については、正答率が高く、基本的な知識は定着していると考えられる。また、自然の事物・現象を観測データ等から考え、判断する問題や、細胞の仕組みやはたらきについて理解を問う問題についても正答率が高かった。

一方、観察や実験の結果を科学的に考察し、その結果を記述する問題については正答率が低かった。自然の事物・現象について、原因や理由を明らかにし論理的に表現できるようにすることが必要である。また、実験から得られたデータを適切に処理し、分析や解釈する学習活動に取り組むことも重要である。さらに、身近な自然の事物・現象から課題を見出し、仮説を立て実験を計画するなど、主体的に探究的に学習活動に取り組む姿勢を育むことが大切である。

①は、エンドウの観察を通して、顕微鏡を用いた観察の仕方や、細胞のようすの違いを分析し、生物が成長するしくみについて解釈する力をみる問題であった。基本的な知識を問う問題については、正答率が高かった。一方、細胞分裂の時期を判断する問題や、植物の成長を説明する問題では、正答率が低かった。観察や実験をもとに分析し、結果を文章で表現する学習活動を充実させることが望まれる。

②は、半円形のガラスや簡易カメラを用いた実験の結果から、光の屈折や凸レンズを通った光の進み方について考察し、表現する力をみる問題であった。実験結果を視覚的にとらえ解釈する問題では、比較的正確率は高かった。一方、実験結果から規則性を見いだす問題については、正答率は低かった。自然の事物・現象の規則性を定性的に理解し、表現する力の育成が望まれる。

③は、地震によって起こる土地の変化や、地震の揺れが伝わる時の規則性を考察し、表現する力をみる問題であった。地震についての基礎的な知識や理解をみる問題については、正答率が高かった。一方、観測データを処理し、グラフを作成する問題については、正答率が低かった。目的にあわせてデータを処理し、考察する力の育成が望まれる。

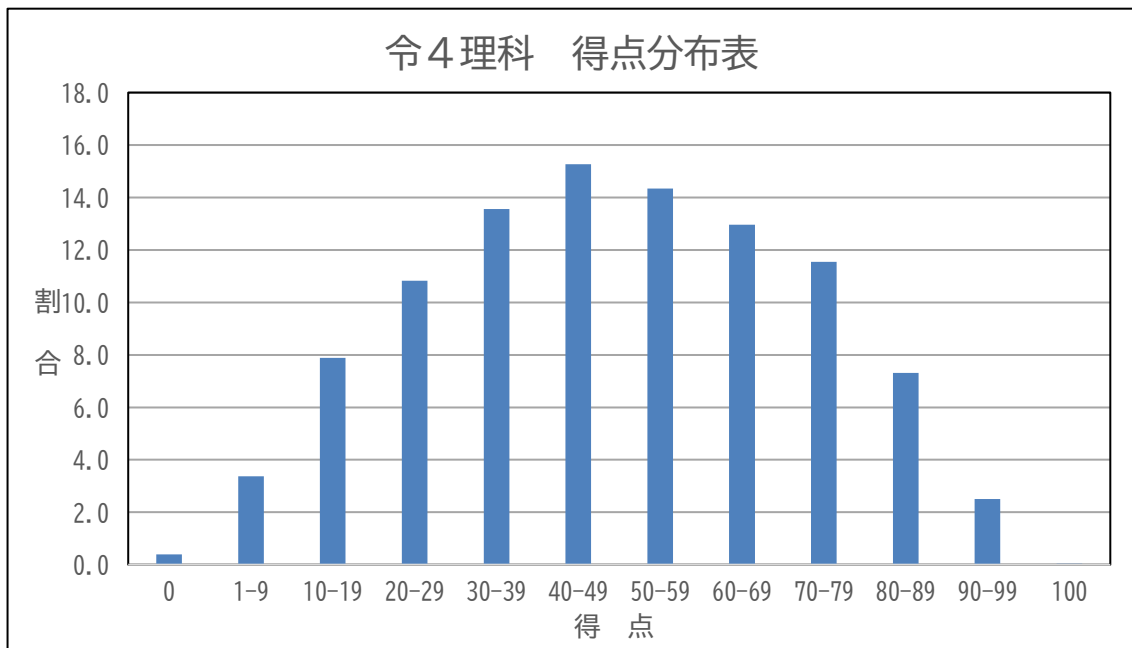
④は、熱分解や電気分解の実験によって物質が分解することや、分解した物質の性質を科学的に調べる方法を問う問題であった。物質の分解に関する基礎的な知識や理解をみる問題については、正答率が高かった。一方、実験結果を考察し、化学変化が起こった理由を述べる問題の正答率は低かった。物質の性質や変化の調べ方を身に付け、表現する力の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率	
1	1	61.9	
	2	名称	73.0
		役割	56.4
	3		26.0
	4		28.0
2	1	47.3	
	2	48.4	
	3	38.3	
	4	13.8	
	5	(1)	23.4
		(2)	11.9

問題区分		正答率	
3	1	41.3	
	2	69.2	
	3	84.6	
	4	31.6	
	5	28.9	
4	1	54.0	
	2	理由	21.3
		物質名	50.3
	3	29.3	
	4	21.7	
	5	54.9	
	6	(1)	40.2
		(2)	68.8

年度	平均点	標準偏差
令4 (100点満点)	48.8	22.8



令和4年度 英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。また、基礎的な英語を聞いたり読んだりしたことから、話し手や書き手の意向を正しく理解する力や自分の考えを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学生が学校生活や家庭生活の中で経験するコミュニケーションの場面が設定されており、習得してきた理解力や表現力を問う工夫がある」「イラストやグラフ、資料などを上手に活用し、身近な問題について生徒が主体的に考える問題」であるなどの意見があった。

設問については、「身近な場所を紹介する自由英作文など、生徒の思いや考えを問う問題も含まれており、バランスの取れた問題構成だった。」「様々な情報を読み取らせる工夫がなされていた。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、日常的な話題に関する英文を聞いたり、読んだりして必要な情報をつかむ力や文章の内容を理解するために必要な語彙や表現に関する基礎的な知識はある程度身につけている。短い英文で話されている内容を聞く問題や本文の内容を短い英文で答える問題の正答率は高かった。一方で、読んだことや聞いたことを基に自分の考えを書く問題の正答率は低い。実際のコミュニケーションを目的として、複数の技能を活用しながら英語を運用する力を高めることが必要である。日常的な話題や社会的な話題に関する英文を読んだり、聞いたりして、目的・場面・状況に応じて概要や要点を捉えるとともにその内容や言語材料を活用して、自分の考えを表現する活動を行うことが望ましい。

①の聞き取り問題では、日常生活や身近な事柄に関する短い英文の内容を理解する問題の正答率は高かった。中学校の授業で、話される英語を聞いて、その内容を正確に捉える活動に継続的に取り組ませている成果が表れている。一方で、目的・場面・状況に応じて話し手が伝える概要を捉えながら考えさせる思考力・判断力を問う記述問題については正答率が低かった。聞いたことについて、書いたり、話したりする領域統合型の言語活動の充実が望まれる。

②は、英語の授業に関するアンケートの内容や、その結果のグラフから必要な情報を適切に読み取る力が試される問題であったが、短い英文とグラフを相互に読みながら設問に対して答える問題については、得点率が高かった。一方で、話の展開に応じて、適切な語句を選択する問題や指示語の内容を答える問題の正答率は低かった。日常的に、会話の流れや文脈を意識して英文を読むような活動の充実が望まれる。

③は、中学生による社会的な問題についての発表をもとに、話の概要や要点を捉えさせたり、自分の考えを英語で表現したりする力が試される問題だった。本文の内容を正しく理解する問題の正答率は高かったが、英文やグラフから必要な情報を捉える問題や読んだことをもとに、自分の考えを答える表現問題の正答率は低かった。英文やグラフから目的・場面・状況に応じて、必要な情報を取り出し、内容に対する感想や賛否を話したり、書いたりする活動の充実が望まれる。

④は、滋賀県の良い場所を英語で紹介させる表現力・思考力を問う問題だった。正答率は低く、日ごろから自分の考えを他者と表現し合う活動が望まれる。

英 語

問題区分		正答率		
①	その1	1	84.1	
		2	53.0	
		3	75.5	
		4	30.5	
	その2		61.5	
	その3	1	53.7	
		2	54.5	
		3	34.6	
		4	44.9	
	②	1	イ	81.8
			オ	48.7
		2		39.7
3			53.3	
4			56.7	
5			14.6	
6			41.5	
7			14.2	

問題区分		正答率	
③	1	(1)	53.3
		(2)	20.6
	2		56.4
	3		6.2
	4		100.0
	5		40.0
6		24.7	
④		25.9	

年度	平均点	標準偏差
令4(100点満点)	47.0	22.4

